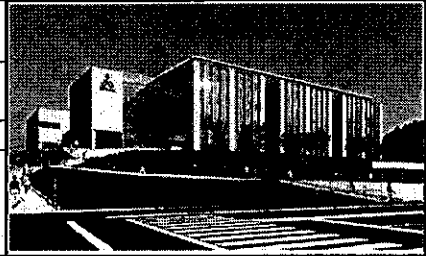


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|-----------------------|--------|----------------|
| 建物名称 | 摂南大学農学部棟(仮称)新築等工 | 階数 | 地上3F |
| 建設地 | 京都府八幡市八幡橋前29番1、21番 | 構造 | S造 |
| 用途地域 | 第1種・2種中高層住宅専用地域、 | 平均居住人員 | 200人 |
| 地域区分 | 5地域 | 年間使用時間 | 8,760時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 学校、工場、 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2020年1月 予定 | 評価の実施日 | 2018年9月25日 |
| 敷地面積 | 32,231 m ² | 作成者 | 株式会社 鴻池組 |
| 建築面積 | 7,189 m ² | 確認日 | 2018年9月25日 |
| 延床面積 | 17,809 m ² | 確認者 | 株式会社 鴻池組 |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

環境品質 (縦軸) vs 環境負荷 L (横軸)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算: ①参照値 100%, ②建築物の取組み 84%, ③上記+②以外の 84%, ④上記+ 84%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

| 3 設計上の配慮事項 | | その他 |
|---|---|--|
| <p>総合 ライフサイクルCO₂排出量削減に努め、省エネに考慮した設計である。大学という用途により長寿命で維持管理のしやすい建材を採用し、居心地の良さや温かみのある計画となっている。</p> <p>既存建物との調和、まちなみになじむ外観設計や、防犯性にも配慮された設計となっている。</p> | | 特になし。 |
| <p>Q1 室内環境 建築材料にはF☆☆☆☆を採用。開口可能な窓が十分設けられており、自然換気性能が高い。教室の照度が十分の確保されている。</p> | <p>Q2 サービス性能 内装に府内産の木材を利用し、自然の温もりを感じられる内装計画となっている。内装材や配管の耐用年数が長い建材を採用し、建物の長寿命化を図った計画となっている。</p> | <p>Q3 室外環境 (敷地内) 建物高さや色調が既存建物とバランスよく調和する設計である。アプローチ階段の手すりは視界を遮ることなく配置されているため、防犯性に優れている。</p> |
| <p>LR1 エネルギー 適切な断熱材を施すことにより、外皮の熱負荷抑制に努めている。</p> | <p>LR2 資源・マテリアル 換気装置付き節水型便器の採用により、省エネに配慮している。エコマーク商品のリサイクル資材を積極的に採用している。OAフロアを採用することで、部材の再利用可能性向上に</p> | <p>LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO₂排出量削減に努めている。</p> |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される